

自治体の課題、現状

(現状)

- 県内には1校の県立中学校が設置されている。
- 「休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行」について、現状を把握するため、生徒、保護者、教員へアンケートを実施した。
- アンケートの結果から、生徒はより自由で多様な活動を求めている、保護者は安全・安心な活動の実施を求めている、教員は学校部活動からのスムーズな移行を求めていることがわかった。

(課題)

- ▲全県から生徒が通学しているため、活動場所までの移動手段や、新たな活動費用の負担が課題である。

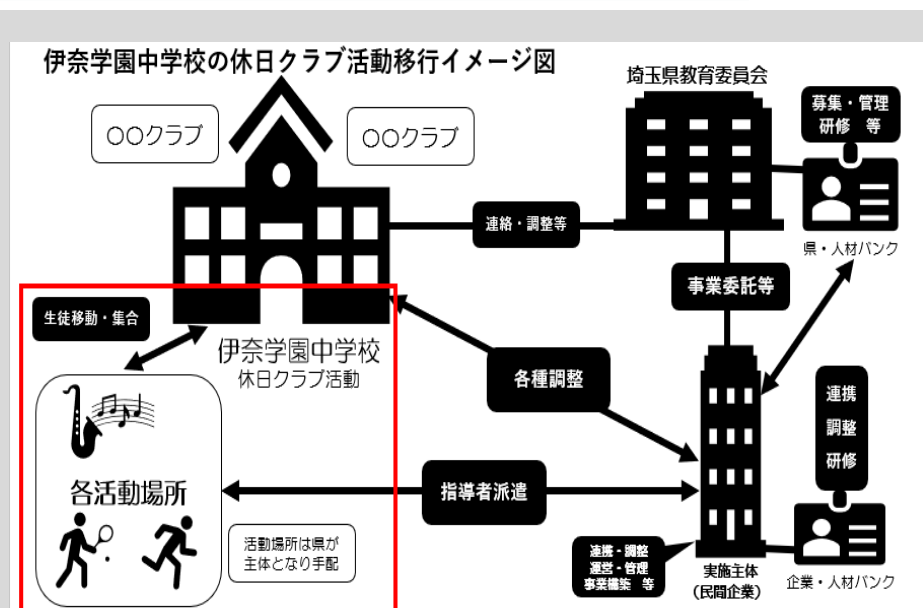
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1 校	全生徒数	240 人
校内の部活動数	5 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	2 人
運営団体	民間事業者 株式会社 サクシード		
実施種目	ダンス		
活動回数	全 5 回	参加生徒実数	3 年 : 0 人 2 年 : 4 人 1 年 : 1 人
参加会費	5,000円/全5回	主な活動場所	埼玉県立伊奈学園中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・生徒の多様なニーズに応じるため、学校と協議をし、**学校部活動にはない活動内容とした。**
- ・アンケートで希望の多かった**ダンス（運動系）と調理（文化系）**のクラブを設置した。
- ・広域から生徒が通っているため、生徒の移動の負担や、交通費への負担を軽減するため、**学校を活動場所とした。**
- ・**学校が設置されている伊奈町とも連携し、参加生徒を募集した。**
- ・ダンスを専門としているインストラクターによる指導を受けることができ、**生徒・保護者からの満足度は非常に高かった。**

運営体制図



自治体の課題、現状

(現状)

熊谷市では、少子化の中でも生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現を図ることを目的とし、実証事業に参加している。熊谷市立中学校における部活動は継続しつつ、生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現に向けて、休日の運動部活動の地域連携について実証を行った。

(課題)

- 1 少子化・・・30年後には熊谷市の生徒数は半数になるという試算がある。
- 2 働き方改革・・・教員への意識調査の結果、約6割の教員が休日の部活動を持ちたくないと回答した

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	16校	全生徒数	4,438人
域内の部活動数	197部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	25人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	熊谷市教育委員会		
主な種目	陸上、剣道、ラグビーフットボール		
平均的な活動回数	2～3回/月	年間平均参加生徒実数	1クラブあたり30名～60名
参加会費	市が負担	主な活動場所	富士見中学校他

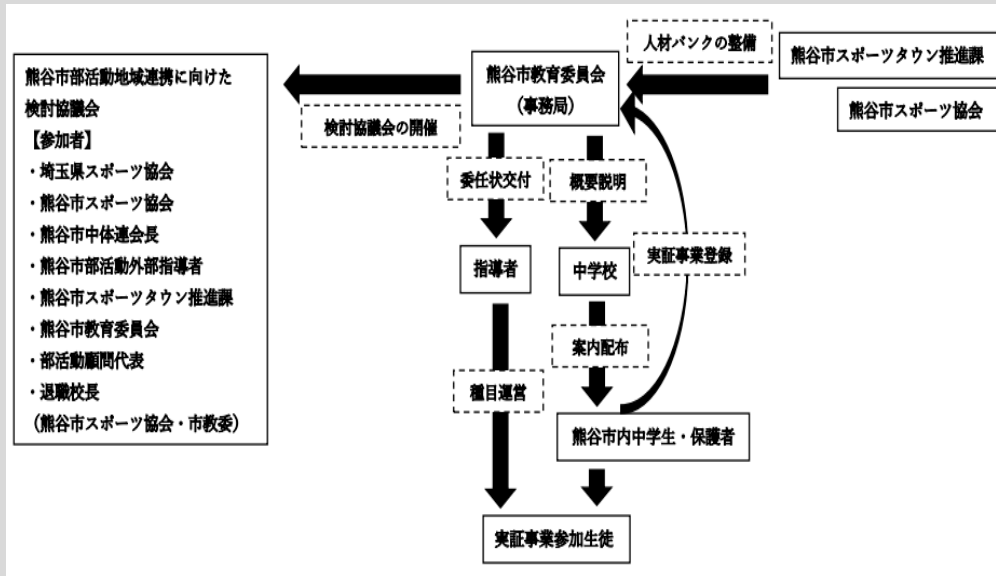
地域移行関連の取組、成果

○熊谷市立の中学校を活動拠点（拠点校方式）にして、陸上部と剣道部、ラグビーフットボールに指導員を配置し、休日の部活動の地域移行について実証を行う。期間は令和6年7月から令和6年12月までの指定した土曜日とする。案内を市内すべての中学校1・2・3年生に送付し、熊谷市教育委員会が参加希望を集約し活動を実施する。

○実証事業に参加して自分の技術は向上したと思いますか。という問いに対して、約90%の参加生徒が「向上した」「どちらかといえば向上した」と回答した。

また、参加した保護者からも、実証事業をして継続欲しいという声もあった。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市の運動部活動においては、少子化の影響で合同チームでの大会参加や廃部が増加しているほか、競技未経験の教職員が顧問を務めるケースも多い。その結果、授業準備時間の確保が難しくなるなどの課題が生じている。こうした状況を受け、本市では令和5年10月にアンケート調査を実施し、さらに部活動地域移行研究懇話会を設置して、関係者のニーズに基づいた地域移行の方向性を協議している。今後の課題としては、地域指導者の確保や財源の確立、学校と地域クラブの連携強化が挙げられ、参加費負担に関する支援策についても慎重に検討を進めていく。

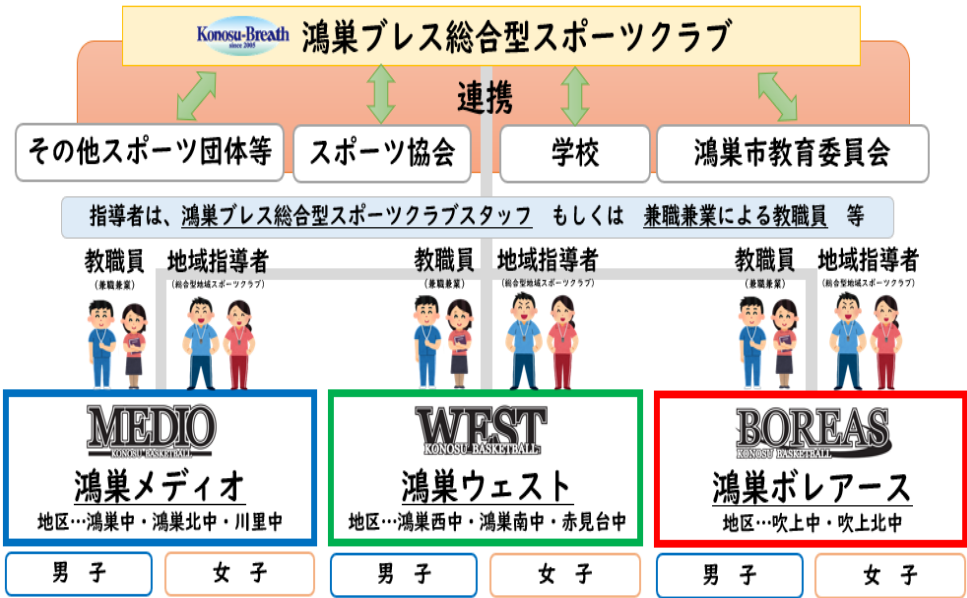
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	8 校	全生徒数	2,681 人
域内の部活動数	109 部	実施した地域クラブ数	3 クラブ
全体の指導者数	25 人	全体の運営スタッフ数	3 人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	バスケットボール		
平均的な活動回数	1 回/月	年間平均参加生徒実数	2 年：30人/クラブ 1 年：24人/クラブ
参加会費	会費等の徴収無し	主な活動場所	市内各中学校

地域移行関連の取組、成果

今年度の実証事業では、鴻巣ブレス総合型スポーツクラブを運営団体として、**地域エリアごとにクラブ活動を編成**した。各チームは既存の学校単位ではなく、広域的な活動体制をとることで、少子化による部員不足の課題にも対応している。その際、学校の枠組みを超えた指導者間の連携も必要となることから、**運営団体の地域指導者と顧問の教職員を交えた会議**を複数回にわたり実施するなど、指導方針の共有を丁寧に図りながら、生徒が安心して活動できる環境整備に留意した。また、地域移行による生徒・保護者の理解を促進するため、**説明会の開催や説明動画の公開、連絡アプリの活用等**により、地域一体となった意向を重視した運営が図られた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・ 学校部活動を進めていく上で、生徒数の減少により、今までどおりの部活動数を維持することが困難となっており、部活動安全な実施と教員の負担軽減を踏まえ、計画的に部活動数を削減し、数の適正化を図っていくことなども取り組むべき喫緊の課題となっている。
- ・ 深谷市においては、「① 部活動数の適正化と部活動時間の工夫」と「② 休日の活動における地域連携の検討」の2つの柱を据え、学校教育全般に渡っての総合的な取組を進めながら、部活動改革に取り組んでいく。

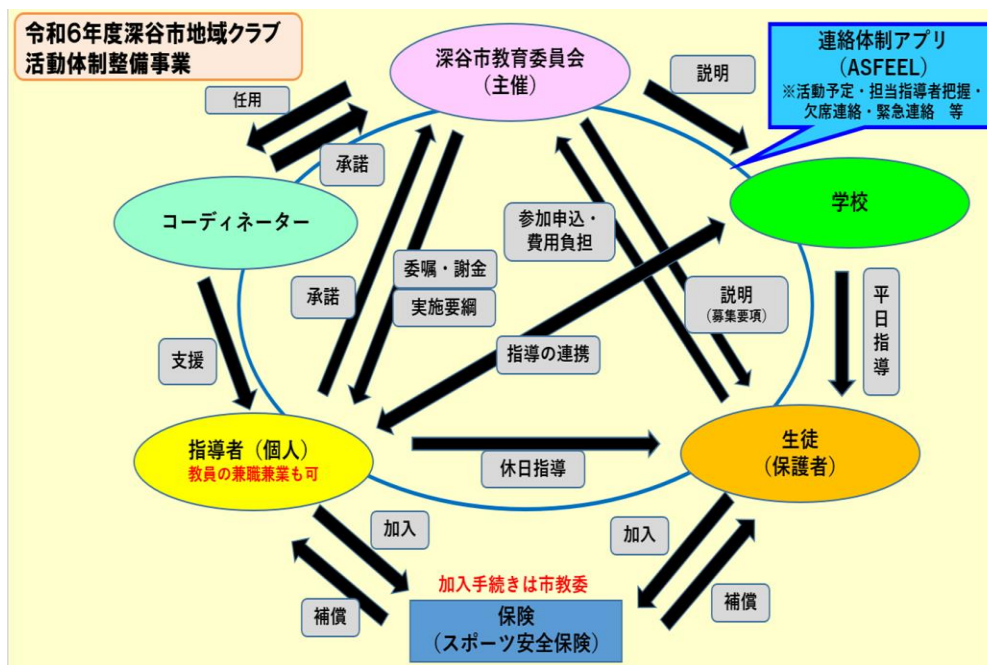
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	10 校	全生徒数	3,486 人
域内の部活動数	126 部	実施した地域クラブ数	5 クラブ
全体の指導者数	31 人	全体の運営スタッフ数	31 人
主な運営団体	深谷市教育委員会		
主な種目	卓球、剣道、ラグビー、バドミントン、ソフトテニス		
平均的な活動回数	4 回/月	年間平均参加生徒実数	3 年：0 人/クラブ 2 年：4 人/クラブ 1 年：7 人/クラブ
参加会費	1 回200円 保険料800円	主な活動場所	各中学校 活動団体保有施設

地域移行関連の取組、成果

- ・ 参加した生徒が本事業に関し、**専門的な技術指導等を理由に、非常に高い満足度（92%）**を示した。
- ・ 連絡アプリを活用し、**指導者同士が綿密に指導日の調整**を図りながら、指導予定を立てられた。活動内容についても中心となる指導者からこまめな情報が発信され、**情報や指導の共有化**が図られた。
- ・ 活動によっては、若い方も指導者登録をし、ベテランの指導者とともに指導を行うことで、**活動を持続可能なものにしていく体制づくり**が図られた。

運営体制図



自治体の課題、現状

・本市の課題は・・・

- (1) 少子化及びニーズの多様化
- (2) 生徒のスポーツ・文化芸術活動を支える人材の確保と育成
- (3) 教員の働き方改革 等

・現状の地域移行の取組は・・・

- (1) 部活動地域移行推進協議会の設置
- (2) 埼玉上尾メディックス等との連携によるモデル事業の積極的な実施
- (3) 「上尾市における部活動の地域移行に向けた基本方針」の策定・

「ロードマップ」の作成

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	12校 ※東中学校向原分校を含む	全生徒数	5,363人
域内の 部活動数	172部	実施した 地域クラブ数	7クラブ
全体の 指導者数	59人	全体の 運営スタッフ数	3人
主な 運営団体	(運営団体) 特定非営利活動法人サンワエナジークラブ (総合型地域SC) (実施主体団体) プロスポーツチーム・市競技連盟・市中体連・民間クラブ		
主な種目	ソフトテニス・陸上競技・バレーボール・軟式野球・バスケットボール 卓球・剣道		
平均的な 活動回数	3回/月	年間平均 参加生徒実数	3年： 0人/クラブ 2年： 36人/クラブ 1年： 32人/クラブ
参加会費	300円/1回	主な活動場所	上尾市立中学校 上尾運動公園

地域移行関連の取組、成果

◎運営事業者「AGEO地域クラブ代表者会議」発足

・・・統括コーディネーター業務を総合型地域SCに委託

・実施主体である教育委員会の下に、運営事業者（運営団体）を発足させ、その業務を総合型地域SCに委託した。

◎統括コーディネーターの管理の下、「同運営方式」で

7種目の地域クラブ活動を実施（各種目1団体ずつ実施主体団体を選定）

・7種目が同じ運営方式で活動を行う体制づくりを進めた。（次年度の水平展開を見据えて）

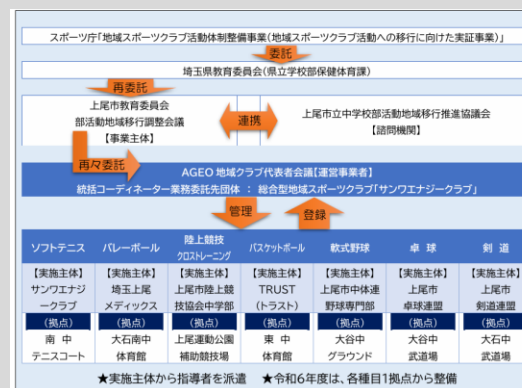
◎「上尾市における部活動の地域移行に向けた基本方針」に基づく体制整備を推進

・本事業に関係者のゴールイメージを共有するため、基本方針を策定し、方針に基づく体制整備を、関係者協働の下で進めた。

◎スグラムの導入・企業協賛の獲得・受益者負担有り

・持続可能な運営体制を構築するため、受益者負担や専用システムの導入を積極的に実施した。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市は中学校3校、全生徒数1,425人で運動部35部、文化部12部が活動している。各校では教職員数に対して部活動数が多く、顧問教員を複数配置できないという課題があり、加入者数を見ながら部活動の統合や募集停止を検討している。

令和6年度は5年度の活動から切れ目なく実施するとともに、市内3校から生徒が参加することができるように対象者を拡大した。また、小学校4年生～6年生の児童を対象に「部活動等に関する意識調査」を実施し、今後の地域クラブ種目について検討することとしている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	1,425人
域内の部活動数	35部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	スポーツデータバンク株式会社		
主な種目	陸上、剣道、柔道		
平均的な活動回数	3～4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：14人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	800円/年	主な活動場所	第一中学校 第二中学校

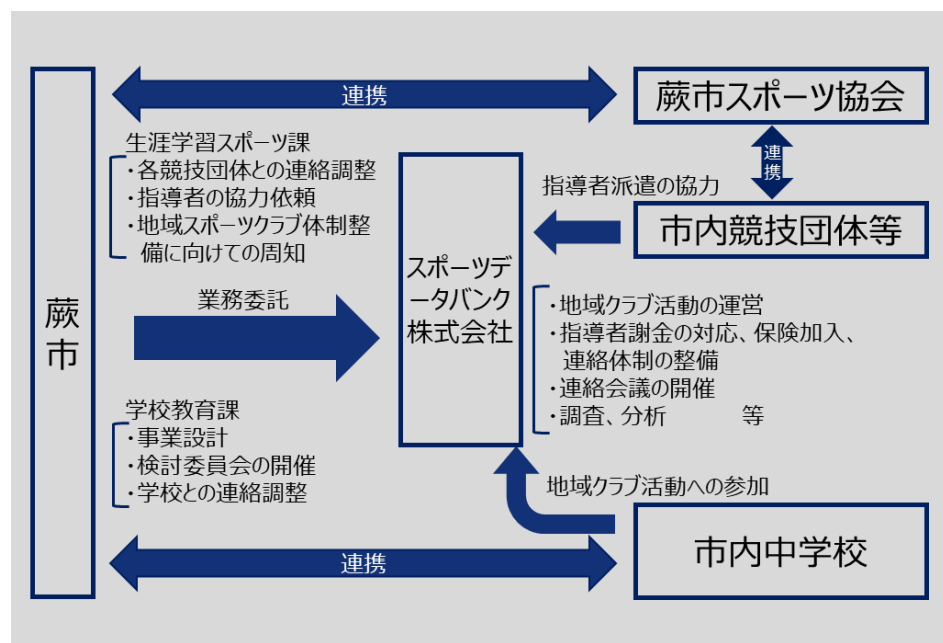
地域移行関連の取組、成果

○年度途中で**市内3中学校から参加**できるように対象者を拡大し、来年度以降も通う学校に関係なく参加者を募集することとしている。

○市内にある**高校との連携**を進め、陸上クラブにおいて高校生との合同練習を実施した。今後も継続した取組にするとともに、多種目においても連携を進めていく。

○**小学校4年生～6年生を対象に実施した意識調査**において、活動してみたい種目等について把握した。地域で活動している団体等との連携を強化し、地域の特色を生かした持続可能な地域クラブ活動を目指す。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・市内 6 校の中学校で101の部活動（運動部71、文化部30）が活動している。
- ・子育て世代が年々増加しており、全体的に少子化の影響は少ないものの、部員数不足から学校単独のチームが編制できない現状も出てきている。
- ・「戸田市立中学校部活動の在り方についてのアンケート」（市内中学校全教職員対象）によると、約98%の教職員が「部活動に課題はある・ややある」と感じている。
- ・課題の主な理由として「教職員の負担が大きい」ことが挙げられており、学校部活動を従前と同様の体制で運営することが難しくなっている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6 校	全生徒数	11,578 人
域内の部活動数	101 部	実施した地域クラブ数	6 クラブ
全体の指導者数	20 人	全体の運営スタッフ数	4 人
主な運営団体	民間事業者		
主な種目	ボート(1) 男子卓球(2) 剣道(2) 陸上競技(1) ※（ ）の数字はクラブ数		
平均的な活動回数	3 回/月	年間平均参加生徒実数	144人/6クラブ ※ 1・2年生の合計
参加会費	800円/年	主な活動場所	平日に部活動を実施している中学校

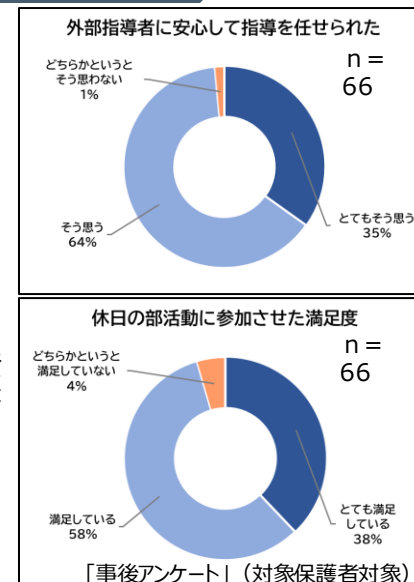
地域移行関連の取組、成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・運営母体に統括責任者を配置することとし、各方面等の連絡調整を一本化する。
- ◇専用アプリによる一括管理
- ◇専用窓口、専用アドレスの設置
- ◇緊急時の連絡体制の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

- ・運営母体（JR東日本スポーツ株式会社）が、登録した指導者を対象に研修会を実施し、規定の研修を修了した者が指導にあたることとする。
- ◇民間事業者と連携した事前研修
- ◇2名体制による指導
- ◇地域関係団体への働きかけ



運営体制図



自治体の課題、現状

【現状】久喜市では、令和5年から実証事業をスタートし、少しずつ移行してきてはいるが、令和6年度に地域クラブに移行した団体は23団体であり、地域移行率は約20%に留まっている。地域人材を指導者とする地域クラブについては19クラブまで増加したものの、教職員が指導者となる地域クラブについては文化部の1クラブのみとなっている。

【課題】ある程度専門的な指導ができる指導者の確保が課題。更なる地域人材の発掘はもちろん、指導実績を有する既存の団体の助力を得ること、教職員が地域クラブの指導者となっていく方策をとる必要があるものと考える。

地域スポーツクラブ活動等の概要

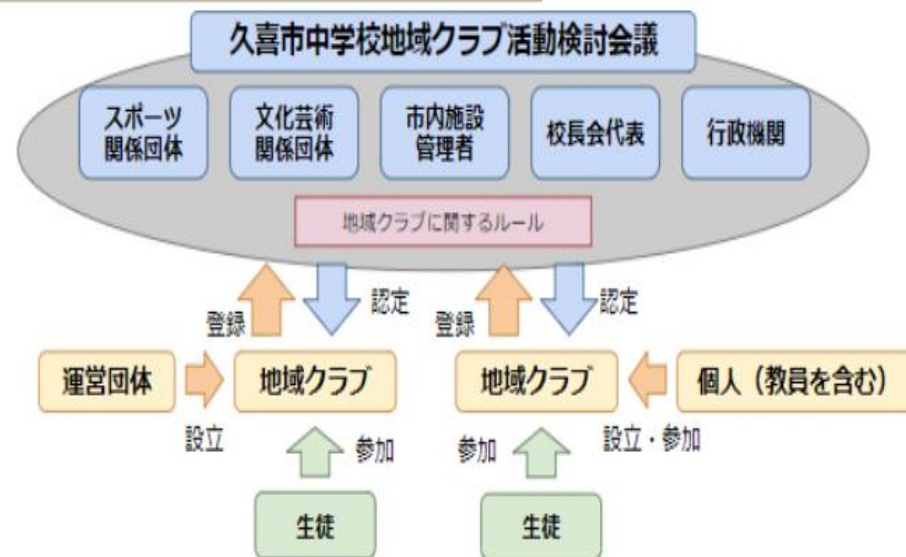
中学校数	10校	全生徒数	3,387人
域内の部活動数	115部	実施した地域クラブ数	23クラブ
全体の指導者数	24人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	久喜市教育委員会 民間事業者		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、ソフトテニス、卓球、剣道など		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円	主な活動場所	市内中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・市内全中学校を対象とする新たな地域クラブを3クラブ設置（サッカー、ダンス、トランポリン）自校の部活動には設置のない活動や、これまで部活動になかった活動に参加できるようになり、生徒の選択肢が拡大した。
- ・専門的な指導者が地域クラブの指導者として活動している。
- ・専門的な指導ができる教職員が、**兼職兼業し、地域クラブの指導者**となることができるよう、届け出等、スムーズに行える仕組みを作成した。

運営体制図

久喜市中学校地域クラブ推進計画 運営体制



自治体の課題、現状

本市における中学校の生徒数は将来的には減少傾向が見込まれており、現在の学校部活動をそのままの形で維持するのは難しく、生徒のニーズに応じたスポーツ・文化芸術活動の機会確保・環境整備を進めることが重要課題となっている。また、市内中学校教職員対象「部活動の地域移行に関するアンケート」では、休日の部活動指導を「したくない」と回答した教職員は約半数に上った。「生徒数の減少」や「教職員の働き方改革」への対応は喫緊の課題であり、中学校部活動を地域に移行し、生徒一人一人がスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境を創出していく必要がある。

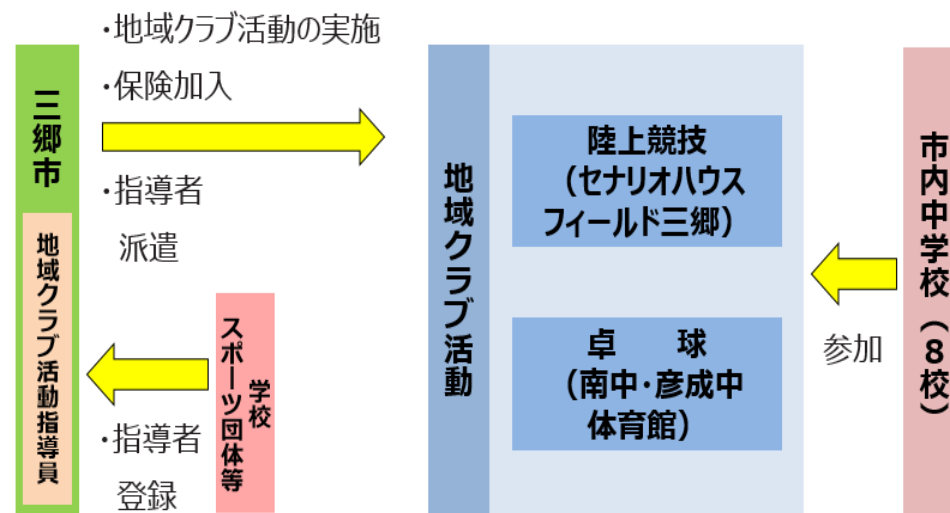
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	8 校	全生徒数	10,702 人
域内の部活動数	85部	実施した地域クラブ数	2 クラブ
全体の指導者数	19 人	全体の運営スタッフ数	30人
主な運営団体	三郷市教育委員会		
主な種目	陸上競技、卓球		
平均的な活動回数	陸上競技 1回/月 卓球 4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：9人/2クラブ 2年：62人/2クラブ 1年：70人/2クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	セナリオハウスフィールド三郷 南中・彦成中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・地域クラブ活動「陸上競技」では、「セナリオハウスフィールド三郷」を活動場所とし、**各種目ごとに分かれて活動することで、生徒がより専門的な技術を習得することができた。**
- ・地域クラブ活動「卓球」では、**会場を市内の北部と南部の2か所に設けることで、生徒がより通いやすいようにした。**また、学校体育館を会場とすることで、会場費をかけずに、月に4回程度、安定的に実施することができた。そして、経験を問わず参加者を募集し、**卓球を楽しむことを第一とした活動**を行うことができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

現在、当市の運動部活動の状況は、陸上競技、野球等12種目が活動しているが、このうち常時活動がある種目は9種目となっている。

少子化に伴い、各中学校に設置の無い部もあり、団体競技の部活動によっては試合を組むことができない等の事態も起きている。

こうしたことから、改革推進期間において、勝敗のみにとられない部活動に代わる新たな当市にあったクラブの形態目指すため、試行的に実施し、速やかに移行が進められるよう、モデル事業の実施を通し、地域移行への意識の醸成を図っていく必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

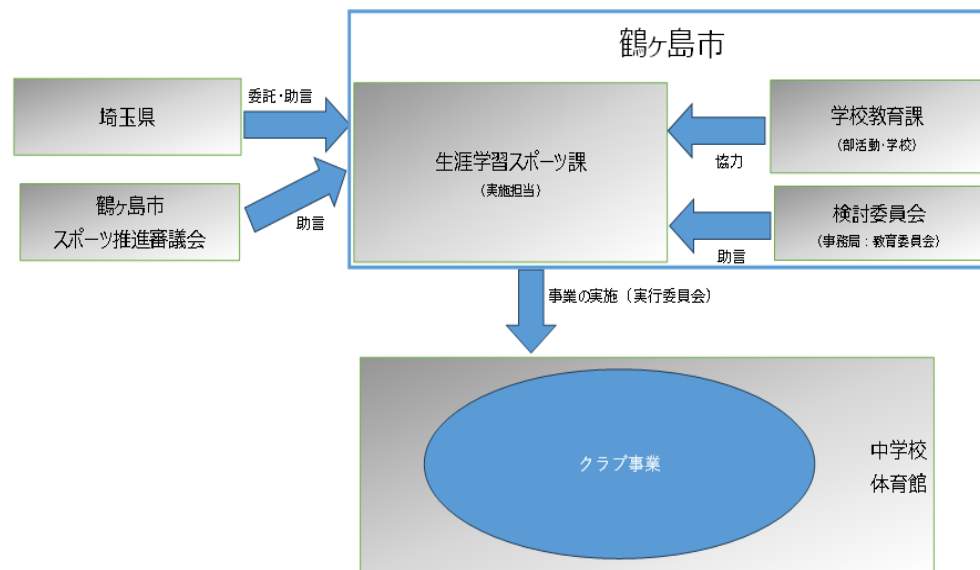
中学校数	5校	全生徒数	1,562 人
域内の部活動数	49 部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3 人
主な運営団体	鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会		
主な種目	バスケットボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	2年：47人/クラブ 1年：34人/クラブ
参加会費	無料	主な活動場所	鶴ヶ島中学校

地域移行関連の取組、成果

○取組としては、市内の指導者に依頼ができない状態のなか、行政の主導にて実施をする。12月の市内5中学校の男女バスケットボール部活動の休日の部活動を停止し、地域クラブへ参加する。男女のクラブは市内5中学校の生徒が参加し、一般的なクラブチーム活動を参考形態として目指した。

○成果としては、参加者から「技量向上になった」、「楽しかった」等の意見があり、好評であったが、実施日の設定は、学校行事等に配慮した日程を組むことが容易でなく、参加者の意識や技量についても、幅が広く、目指す活動のあり方の設定を難しくさせるなど課題も残ることになった。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市には6校の公立中学校があり、2,937人の生徒が在籍し、運動部65部、文化部21部が活動している。しかし、少子化の進行により、学校単位での部活動の維持が困難になりつつあり、部員不足や指導者の確保が課題となっている。また、生徒が中学校・高校で部活動をやめてしまう傾向が強く、競技の継続率の低下により地域のスポーツ活動の形骸化も進んでいる。

こうした状況を踏まえて、競技スキルの向上とスポーツを楽しむ環境を提供し、生涯スポーツの環境づくりを推進していく必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

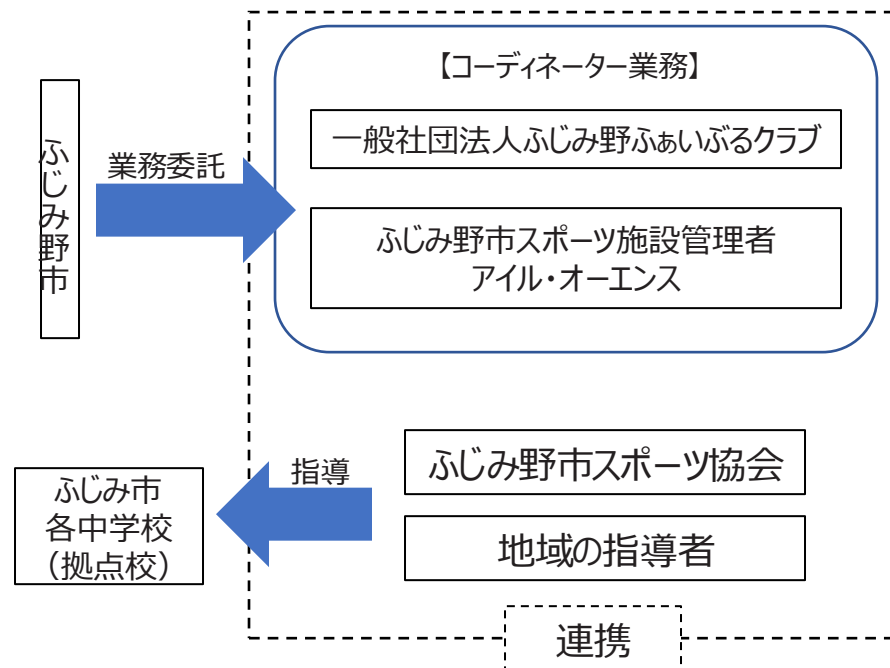
中学校数	6校	全生徒数	2,937人
域内の部活動数	65部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	19人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 民間事業者		
主な種目	陸上、サッカー、剣道、野球、男女バスケットボール		
平均的な活動回数	1回/月	年間平均参加生徒実数	2年：14人/クラブ 1年：15人/クラブ
参加会費	受益者負担なし	主な活動場所	市内各中学校

地域移行関連の取組、成果

他校の生徒と交流しながらスキルアップを図ることを目的とした合同活動を導入し、拠点校に参加生徒が集まり練習を行う仕組みを構築した。生徒が所属する部活動を基盤に、競技の基礎スキルを向上させるとともに、スポーツをより深く楽しみ、充実した活動ができる環境の提供を目指している。

また、地域のスポーツ関係者と連携し、競技性の高い専門的な指導を実現し、生徒の技術向上につながっている。さらに、地域全体で生徒の成長を支えることで、持続可能なスポーツ環境づくりにも貢献している。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市では、令和3年度から、モデル事業として文化庁や埼玉県からの協力や連携体制を築き、生徒や保護者、地域にとって望ましい部活動の実現を目指すとともに、部活動における教職員の負担軽減等を図ることを目的に、地域人材の協力を得ながら休日の部活動の段階的な地域移行をスタートさせた。市内4中学校で、学校と地域との連携、人材の確保、費用負担の在り方、教職員の働き方改革等の課題に対して総合的に取り組んでいる。

今後は、市内すべての「休日に活動を実施している部活動」の地域移行、費用負担の検討・受益者負担の実施等、「持続可能な地域クラブ活動」にむけて課題を一つ一つ解決しながら進めている。

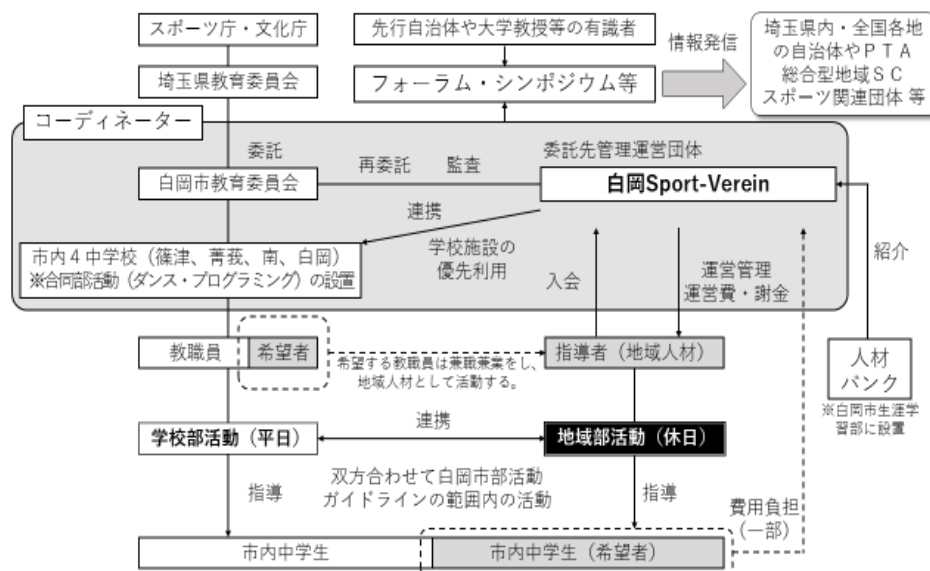
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	1,243人
域内の部活動数	50部	実施した地域クラブ数	35クラブ
全体の指導者数	36人	全体の運営スタッフ数	5人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	軟式野球、サッカー、バスケットボール、卓球、ソフトテニス、剣道、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、陸上、ダンス		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：144人 2年：123人 1年：140人
参加会費	2,500円/月	主な活動場所	市内中学校

地域移行関連の取組、成果

- ア：関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施団体の整備
 - ・地域クラブ活動の協議会を立ち上げ、各スポーツ団体との連携、受益者負担の在り方等課題を検討・実施していく。
- イ：指導者の質の保障・量の確保
 - ・地域から指導者を確保できるように、委託先団体を通じて各スポーツ団体、スポーツクラブ等と連携して量の確保に取り組む。
- カ：参加費用負担の支援等
 - ・地域クラブ活動の協議会で、各スポーツ団体、学校、PTAと意見を交換したうえで、受益者負担の在り方について決定する。

運営体制図



自治体の課題、現状

現在当町の運動部活動は29部活あるが、令和5年度からサッカー部が合同部活動として活動するなど、少子化のため、チームが編成できない状況になっている。今後も生徒数は減少していくことが想定されているため、部活動を維持していくことは難しいと考えている。
令和5年度に「伊奈町立中学校の部活動地域連携・地域移行検討委員会」を設立し、実証事業の実施についても検討を行った。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	1,326人 (令和6年5月1日現在)
域内の部活動数	41部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	6人
主な運営団体	伊奈町教育委員会		
主な種目	バドミントン、尺八		
平均的な活動回数	1回/週	年間平均参加生徒実数 (バドミントン)	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	1,000円/月 (バドミントン)	主な活動場所	南中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・伊奈町で行う地域スポーツクラブ活動に、どのような要素が必要となるかを明らかにし、地域スポーツクラブ活動への移行の形を作るために令和6年度に実証事業を実施した。
- ・3中学校から生徒を募集して**1カ所に集まって練習を行う形**としたが、問題なく活動できたことは一つの好事例となった。
- ・町の面積が広くないことから、今後も町内中学生を1カ所に集めて活動を行うという形で実施していきたい。

運営体制図

R6 伊奈町地域クラブ活動 実施体系図

